

Ⅱ. 研究活動概要

(1) 目的

海外橋梁技術研究部会の活動目的は以下のとおりである。

- 1) 海外橋梁の設計・製作・架設に関する諸技術を調査研究する。
- 2) 海外技術の社会的背景やプロジェクトの進め方について調査研究する。
- 3) 海外技術と国内技術を比較検討し、我国の技術へのフィードバックと海外物件対応への糧とする。

(2) 活動経緯

設計技術研究分科会では合同部会を含めて、60年度は5回、61年度には7回の研究集会を開催した。

最初の研究テーマは「コンサルタントの設計図面をもとにして海外橋梁の構造的特徴を把握し、我国の技術との相違を明らかにする」ことに置いた。このテーマを当面は橋別に研究することとし、分科会の中に橋種別研究班を設けた。

桁 橋 班	* 飯村, 小林, 柳沢
トラス・アーチ班	* 堀内, 内田, 春日
斜 張 橋 班	* 八部, 山本, 小野, 小泉
吊 橋 班	* 渡辺, 深谷, 興 (61.6.10までは村上)

(注) *印はまとめ役

(3) 今後の活動方針

1. 海外の設計思想や解析技術が分かるような技術資料を収集する。
2. 国内事例との相違点をテーマとした研究を進める（事例研究から思想研究へ）。
3. 合同部会（講演会、分科会研究発表会等）を開催する。